

事務事業評価表 平成22年度

政策 安全で快適な都市生活の充実
 施策 市街地整備の充実
 基本事業 人にやさしく、わかりやすい街並みづくり

事業名 **都市景観創出事業**

[0326]

部名	企画政策部	事業開始年度	昭和62年度	実施計画事業認定	非対象
課名	都市計画課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市民</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>都市景観に対する意識の高揚と、江別らしい景観づくり(ランドマーク等)への理解と関心を高める。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>景観に関する啓発 情報発信として景観パンフレットの発行と企画展を開催し、さらに市民や企業などにより創り出された優れた景観および景観向上のための活動に対する顕彰制度として都市景観賞の募集 選考を行う。また、江別市の特色ある都市景観の創出として、一面吊り鋼斜張橋として世界的にも有数の美原大橋のライトアップを行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市民	人	123,537	123,054	122,568	122,568
対象指標2						
活動指標1	企画展の開催日数	日	15	15	15	15
活動指標2	美原大橋ライトアップ日数	日	154	155	154	152
成果指標1	企画展参加者数	人	420	262	199	400
成果指標2		件				
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	1,073	189	199	901
正職員人件費 (B)		千円	8,374	1,254	1,245	4,997
総事業費 (A) + (B)		千円	9,447	1,443	1,444	5,898

費用内訳	
21年度	需用費 138千円、委託料 61千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	都市景観の向上と快適な都市環境を創り出すため、景観に対する意識の高まりを図ろうとの目的で開始された普及啓発事業である。また、近年の環境変化としては低迷する経済状況などから景観に対する投資が抑制されていることや景観づくりに対する意識の盛り上がりは今ひとつの状況となっている。
--------	--	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

景観づくりの機運向上のための普及啓発活動や美原大橋などの公共空間における景観向上のための取組は、総合的な都市景観形成の推進役として行政が行う必要がある。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

人にやさしい街並みづくりの一環として、景観を誘導する観点としては唯一の事業であり貢献度は大きい。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

企画展「都市景観賞」の実施や景観パンフレットの配布により市民に広く景観に対する意識の醸成を図っている。また、美原大橋のライトアップは、ライトアップに関する市民の問い合わせもあり、江別市のランドマークとして浸透しつつある。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

景観パンフレットや企画展について、更なる内容の充実を図ることで、成果向上の可能性はある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
 根拠は？

企画展の開催については、必要最小限の経費により実施している。また、美原大橋のライトアップについては、野鳥への影響など環境負荷への配慮やライトアップ効果の発揮などを総合的に判断し実施している。